

Dr. オリゼダントツ箱粒剤

- 登録番号：第21494号（Meiji Seika ファルマ登録）
- 毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
- 登録初年：2005.04.27
- 性状：類白色細粒
- 有効年限：4年
- 包装：1kg×12袋、3kg×8袋
10kg×2袋

- 種類名：クロチアニジン・プロベナゾール粒剤
- 有効成分：クロチアニジン-----1.5%
プロベナゾール-----24.0%

【特長】

- 稲の病害に対する抵抗性を誘導し、いもち病に優れた防除効果を発揮するDr. オリゼと、幅広い害虫に優れた効果と残効性を示すダントツを組合わせたことにより、水稻の主要病害虫を防除できる。
- Dr. オリゼは特殊製剤技術でプロベナゾールを徐放化しているため、長期残効が期待できる。
- 育苗箱処理で、いもち病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、フタオビコヤガを長期間にわたって防除できる。

【適用内容】（2019年8月末日現在）

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 ツマグロヨコバイ ウンカ類 イネドロオイムシ イネミズゾウムシ ニカメイチュウ フタオビコヤガ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5畝) 1箱当り 50g	移植3日前～移植当日	1回	育苗箱の苗の上から均一に散布する。	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

【効果・薬害等の注意】

- 育苗箱の苗の上から所定量を均一に散布し、茎葉に付着した薬剤は払い落とし、そのまま田植機にかけて移植すること。
- 軟弱徒長苗、むれ苗、移植適期を過ぎた苗などには薬害を生じるおそれがあるので、必ず健苗に使用すること。
- 処理苗移植の本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはていねいに行い、移植後田面が露出したりしないように注意すること。
- 処理苗を本田に移植したのちは、そのまま湛水状態（湛水深3～5cm）を保ち、稲苗が活着するまで田面が露出しないよう水管理に注意すること。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田は使用をさけること。
- 移植後、低温が続く、苗の活着遅延が予測される場合には使用をさけること。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持すること。
- 誤って過剰に使用したり、本剤使用後4日以上移植せずに育苗箱中におくと葉枯れなどの薬害を生じることもあるので、所定の使用量、使用時期、使用方法を厳守すること。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

【安全使用上の注意】

- ※ 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- ※ 散布の際は農業用マスク、手袋、不浸透性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用すること。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換すること。
- ※ 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯すること。
- ※ かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触をさけること。
- ※ 夏期高温時の使用をさけること。
- ※ 魚毒性等：水産動植物(甲殻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に流入しないよう水管理に注意すること。
- ※ 保管：直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。